



あおもり 町連だより

第203号

平成28年1月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

明けましておめでとうございます

元気なまちづくり、地域づくりへ

地域の組織が一丸となって地域を運営

明けましておめでと
うございます。

町会長はじめ町会員の皆様には、清々しく新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から町会連合会に対するご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

青森市町会連合会といたしましては、「町会活動の活性化支援」を基本方針に掲げて、皆様のご理解とご協力により「安心・安全で、支え合い・助け合いのある住みよい地域づくり」を目指して諸事業に取り組んでおります。

平成27年は、町会連合会・地域協議会・地区連合町会・町会が、組織一丸となった活動を原点とし、これまでの事業の進捗状況とその結果を踏まえ「住んでよかった安心・安全なまちづくり」を皆様のご支援により進めて参りました。



加川幸男市町連会長

さて、近年は地域における人と人の触れ合い・支え合い・助け合いが重要となっており、また人口減少や少子高齢化などにより個人の力では解決できない問題が山積しております。これらの課題を乗り越えるためには、町会長・町会員皆様の協力なしでは解決できないものと考えております。

平成28年は、複雑・多様化している地域の課題を解決するため地域の組織が一丸となって地域を運営していくことが有効な手段と考え、元気なまちづくり、地域づくりを目指した活動を推進したいと考えております。

今後とも、皆様からのご教示とご援助をお願い申し上げますとともに、各町会のますますのご発展と、町会長並びに町会員皆様にとって、平成28年が、笑顔がいっぱいで幸せな年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。

5月31日に28年度定時総会

28年度の青森市町会連合会定時総会は5月31日(火)、午後1時からホテル青森で開催します。

紙面紹介

- 2面 27年度市政懇談会
- 3面 27年度除排雪計画説明会
- 4面 第38回町内女性の集い
町会女性部役員研修会
- 5面 27年度地域協議会研修会・意見交換会
27年度理事研修会
- 6面 27年度青函ツインシティ交流研修会
町会要望の交通安全施設整備
青森市表彰4町会長が受賞



八重田浄化センターの積雪・融雪処理槽。排雪された雪を溶かし、土砂などを取り除いて放流する

□平成27年度市政懇談会□

町会の実情訴える 自主防災組織・除排雪 アウガ問題をテーマに

市町会連合会は10月27日（火）、平成27年度市政懇談会を市福祉増進センター（しあわせプラザ）で開き、自主防災組織、除排雪事業、市役所建て替えとアウガ再生をテーマに、鹿内博市長、市幹部と意見交換しました。

懇談会には市町連側から29人、市側から14人が出席。加川幸男市町連会長、市長があいさつした後、市からの情報提供として、市長が、今冬の除排雪の取り組みについて①業者の雪捨て場拡充②市民雪寄せ場拡充③新規業者やオペレーター対象の講習会充実—など、昨冬の実施状況を踏まえ見直しを行った6点について変更内容の概要を紹介しました。

防災会、市内の組織率43%

続いて、加川会長を座長に意見交換。まず自主防災組織について、八戸弘東片岡町会長が「県都である青森市の自主防災組織の組織率が県平均より低い原因はなんだろうか。地区連合町会が費用を負担し、防災に関する十分な知識・技能を持つ防災士を育成したいと考えているが、資格を得るために1人4万円必要になる。防災訓練にかかる費用、非常食等消耗品の費用も相当かかる。現在、自主防災組織へ最高額5万円の助成金制度があるが、これでは町会の負担ではやっていけない。助成金等の見直しが必要でないか」と実情を紹介し、組織率向上に提言を行いました。

これに対し、嶋口幸造総務部長が「組織率は年々伸びてきているが、現時点で43%余り。市では防災に関する嘱託員を配置しており、今後も結成の働きかけ、支援、訓練への協力をしていく。訓練での消耗品については、市で備蓄しているアルファ米（2万7,800食分）を毎年、数千食分更新しており、更新後町会へ案内するので訓練に活用してもらいたい。消耗品はコミュニティ活性化事業助成金の対象になっているので、これも活用してもいいのではないかと思う」と述べました。



市長らと活発に意見交換した
市政懇談会

次に、除排雪事業について、仲谷正筒井町会長が①雪捨て場、雪寄せ場の拡充②業者の雪捨て場を町会に知らせてほしい③オペレーターの研修会を町会にも案内してほしい④市民が道路へ雪を出さないよう指導を徹底してほしい⑤パトロール班を拡充してほしい—と、実情を紹介しながら要望しました。

これについて、館田一弥都市整備部理事が①見直しを行い、業者用の雪捨て場は拡充したので、幾分スムーズになると期待している②担当業者と雪捨て場を確認してもらうようにする③町会にも案内する④除排雪作業中に雪出しされると、危険な上、作業が遅れるので、パトロールで注意していく⑤今冬は14班体制。パトロール職員の講習、検討会も行っている。業者による格差がないように努めたい—と回答しました。

アウガは長期的視点で考えて

市役所建て替えとアウガ再生について、野呂龍一久須志町町会長が「アウガの救済策としてアウガの看板を市役所に変えたらどうか。市職員、来庁舎の地下市場利用増や鉄道、バス利用者増など経済効果が期待できる」と提言し、①アウガへの貸付金24億円をどのように回収するのか②アウガの売上増をどう図っていくのか—と質問、「このままだと、子、孫の世代に大きなつけを残す。将来、JR青森駅もなくなるかもしれない。長期的視点に立って考えてほしい」と要望しました。

市側は、嶋口総務部長が「平成22年度に庁舎耐震診断を実施、大地震が起これば倒壊・崩壊の危険性が高いとされた。23年度に応急補強したが、それでも危険性がある。新庁舎整備は①新たな道路整備などに金がかからない②関係機関と連携が取りやすい③使える庁舎は使う—などから現在の庁舎敷地に定めた」と、市庁舎整備計画策定

の経緯を説明、竹内芳経済部参事が「23億8千万円をアウガを管理・運営する青森駅前再開発ビルへ貸し付けており、返してもらわなければいけないが、売上増の妙薬はないのが実情」と質問に答えました。市長は「アウガのリニューアル資金確保のため、民間企業に打診している。現在のテナントが連携した取り組みをして、空きテナント

の解消に努めていく。専門家によるプロジェクトチームから年内に提言をいただくことになっている。提言にしっかり対応していきたい」と現状の取り組みなどを説明、青森駅について「JR東日本と話し合い、新たな事業費の試算をお願いしており、今年度末に事業費が出てきた段階で、中身を検討し、判断したい」と述べました。

市民雪寄せ場を拡充

27年度除排雪計画説明会

市の平成27年度除排雪事業実施計画説明会が11月5日（木）、沖館市民センターで開かれ、市町連から加川幸男会長はじめ28人が出席、冬道での安全確保、雪によるトラブルの解消に向け、活発に意見交換しました。



27年度除排雪計画の説明を聞く出席者

実施計画について市道路維持課の澤谷泰樹副参事が概要を説明、昨冬の除排雪事業の結果を踏まえて変更した内容として①業者の雪捨て場を新設、計33カ所に拡充した。一部は市民の雪捨ても可能②公共用地の遊休地を活用、市民雪寄せ場を拡充した③委託業者との連携を強化し、地域の状況に沿った除排雪を実施する④委託業者への講習会を開催する⑤歩道確保のため、除雪機の貸し出しを前年度から6団体増やし49団体にした⑥65歳以上の高齢者のみの世帯等を対象にした屋根の雪下ろし費用助成事業の対象要件・助成率を一部緩和した—と話しました。

意見交換では、市町連側から①屋根の雪下ろし費用助成の事前申請はいつから受け付けるか②国道、県道、市道が交差するところも多いので、地域の調整会議に国、県の担当者、業者も参加してほしい③セントラルパークを雪捨て場に使えないか④市民雪寄せ場の立て看板はいつから設置する予定か⑤パトロールで市内をどれだけ回れるだろ

うか。パトロールして問題があった場合、町会長に連絡してほしい⑥調整会議には道路維持課だけでなく、他の課からも出席してほしい⑦パトロールの結果についての情報を町会長と共有するようにすれば対応がスムーズになるのではないかと⑧業者が変更になった工区、理由を教えてください⑨今冬の降雪予想などをもとにした対策などは考えられないか⑩除雪車が通った後、通学路が埋もれてしまい、子供たちが車道を歩いている実態がある。通学路確保は優先的・重点的にやってほしい⑪通学路が狭いところは、ロータリー車を導入するなど除雪の方法、機材を変えてやれないものか⑫道路がすり鉢状になって歩かれないところもある。冬季観光の誘客のためにも、きめ細かく除排雪をしてほしい—と質問、要望が相次ぎました。

これらに対し、市側は①申請受け付けは11月16日から②連絡を取り合い、国道、県道、市道の接点でのトラブル解消に努める③セントラルパーク周辺に住宅が増え、ダンプトラックの騒音・振動が問題になった。地下にドレイン排水のパイプが埋設されているところもある。市民がスノーダンプで雪を運び込むくらいは可能④12月上旬から順次設置⑤市内すべては回れないが、狭い道路も要所を回るようにしている⑥調整会議に前もって相談していただければ対応する⑦町会と協議が必要な時は町会長に連絡し、協力を仰ぎたい⑧業者に条件に見合う能力がない場合、問題に対して改善がない場合、効率よく時間内に作業が終われるように工区を見直した場合、業者を変更している⑨予想では分らないので、どんな状況でも対応できるように備える⑩早めに排雪するように努める。雪盛りは発見し次第対処する。特に危険な個所は、地区の調整会議で教えてほしい⑪把握しているところは、適宜に排雪していきたい⑫雪に慣れていない観光客にも安全に歩ける道路を確保するようにしたい—と回答しました。

第38回町内女性の集い 市長が観光振興の 取り組みなど紹介

市町連女性部会は11月9日（月）、アピオあおもりで「第38回町内女性の集い」を開き、171人が参加、鹿内博市長が「本市の観光振興とシティプロモーション」をテーマに講話し、市広報広聴課の小嶋康崇主幹と山田顕世主査が「あおもり市民100人委員広聴会」をテーマに講演しました。

鹿内市長＝写真＝は「青森市はいいところだ、いいまちだと思うことが、人口減少問題や地方創成に取り組むスタートだ。青森市にはすばらしい



ものがたくさんある」と話し、「地元の情報、企業、商品、人材を首都圏のマーケティング機能などつなぐ交流拠点を近く

地元と東京に設置し、青森の注目度を高めてビジネスチャンスを創出、交流を広げていきたい」と述べました。そして、地域の魅力を内外に発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込んで地域経済を活性化させるシティプロモーションについて①市長のトップセールスで青森市の魅力を内外にアピール、観光大使やイメージキャラクターを活用して市の知名度を向上させる②観光キャッチフレーズ「こころハネる青森」とシンボルマーク、多様なメディアを活用して情報発信する③観光キャンペーンの実施やねぶた・りんご・八甲田・雪など青森市のブランドを海外に発信、弘前、八戸、函館の各市と連携したプロモーションで誘客、販促を図る④ねぶたの活用や食と観光のイベント「あおもり秋まつり」の開催でにぎわいを創出する⑤観光庁から全国で13番目に国際会議観光都市に認定されたことをチャンスに国際会議誘致や外国人観光客誘客につなげる一と、事例を交えながら市の取り組みを紹介しました。特にねぶたについて、東北六魂祭、あおもり10市大祭典、2015ミラノ国際博覧会などでねぶた運行にいたったきっかけやエピソードなどを披露して、「ねぶたは毎

年全国40数カ所で開かれており、私たちが思う以上に大きなブランドになっている。東京オリンピック・パラリンピックの開会式、閉会式での運行も夢でない」と語りました。

小嶋主幹は、あおもり市民100人委員広聴会（平成21年に設置した「市民100人委員会」を平成24年に名称変更）について、設置の目的、これまでの主な案件、運営、経費（平成26年度は会議を6回開催、委員の報奨費1回につき2,500円、会場使用料、消耗品等を含め126万円）、委員の構成（公募委員70人程度、各種団体からの推薦による委員30人程度）、意見に対応して予算へ反映した主な事業などを紹介しました。

『市の都市計画』学ぶ

町会女性部役員研修会

市町連女性部会は10月6日（火）、アピオあおもりで、町会女性部役員研修会を開き、出席した56人が市都市政策課の武田泰孝主幹と片岸道悟技師＝写真（武田主幹左、片岸技師）＝を講師に、「青森市の都市計画」について学びました。



武田主幹らは、青森市内の住宅専用地域、商業地域、工業地域を色分けした地図を示しながら、それぞれの地域に建てること

ができるもの、できないもの、市の計画道路の整備状況（67%が整備済み）、素案作成から都市計画決定までの手続きなど説明しました。加えて、市の人口（約29万人）、世帯数（約13万6千世帯）、産業など市の概要を紹介、問題として①市街地拡大と人口減少②都市サービスの郊外化③公共交通の利用減少一を挙げてコンパクトシティ形成の必要性を説きました。そして、その取り組みとして市内を3区分、各地区の特性に応じて整備を進めていると話しました。

この後、青森駅周辺、新町通りなどの街並み、市内の主な建物、小学校、高校の校舎など60カ所あまりについて、昭和20年～40年代の写真と同じ場所の現在の写真とを対比させながら、市の移り変わりを紹介しました。

ごみ問題など考える

27年度地域協議会

27年度の地域協議会ごとの町会長研修会・意見交換会が別表の通り開かれました。

中部地域協議会（種市勲会長）は9月28日（月）、町会長26人が出席して海扇閣で開催、「ごみ問題への対策」をテーマに討議しました＝写真。

はじめに、市の市民協働推進課の館山公課長が、市が6月～7月に全町会を対象に実施した「町（内）会活動・運営に関するアンケート」の調査結果について報告、説明しました。

次いで、「ごみ問題への対策」について討議。市が11月から、家庭から出される燃えるごみを



対象に「指定ごみ袋制度」を導入、4月からは黄色半透明のごみ袋へ完全移行になることについて①4月以降、青色半透明のごみ袋は収集しないことになっているが、収集されないごみを放置できない。結局、市で収集することになると思うが、その手順等が決まるまで完全移行は延期してほしい②収集されなかったごみは、夏場は臭気がひどくなり、ごみ集積所近くは大変迷惑③袋への町会名記入が難しい高齢者もいるのではないかと。他町会の人を持ち込んだごみ袋に、自分たちの町会名が記入されている場合はどうなるのか。町会名記入の必要性について説明が足りない④雑紙保管袋を使っていない人が多い。他町会ではどうしているか⑤町会名はマジックでないと記入できないのか⑥他町会の人が通勤途中に、分別されていないごみを置いていくケースもある。ルールを守らない人の対策は⑦ルール違反には罰則を設けるくらいの強い意志が必要でないか⑧アパート住民には町会不参加が多い。飲食店などはごみ処理を独自に行っているが、アパートも独自にできないものかと多くの意見が出されました。他にも、アパートの管理会社と交渉して町会費を管理費に含めてもらっている事例、町会の収集所に「本日は〇〇ごみの収集日です」と書いたプラスチック製のプ

地域協議会名	会場・日時	研修テーマ等
中部	海扇閣 9月28日（月）	ごみ問題の対策について 町会長で討議
西部	西部市民センター 10月20日（火）	北海道新幹線開業に向けた 取り組みについて 講師：青森市経済部新幹線対策室 工藤拓実 室長
南部	クラウンパレス青森 11月17日（火）	「がん」の話 講師：医療法人芙蓉会 村上病院 健康診断科 田中 弦 医師
東部	リンクステーション ホール青森 11月18日（水）	インフルエンザ予防、 ノロウイルス食中毒 講師：元 県青森保健所総括主幹 鶴賀 晃氏
北部	油川市民センター 11月20日（金）	町会が抱える問題について 町会長が意見交換

*研修会では、すべての地域協議会で、上記研修テーマのほかに、市が6～7月全町会を対象に実施した「町（内）会活動・運営に関するアンケート」について、市民協働推進課職員が調査結果の報告・説明を行い、意見交換しました。

レート掲げ、ごみ分別徹底を図っている事例の紹介があり、これらの意見等は「青森市ごみ問題対策市民会議」に提起することになりました。

健康になるためには

27年度理事研修会

市町連は12月2日（水）、ラ・プラス青い森で27年度理事研修会を開き34人が出席、青森市保健所の野村由美子所長＝写真＝が、「延ばそう！健康寿命」のテーマで講演し、健康で長生きするための心得を説きました。

野村所長は、青森市の死亡者の原因はがん、心疾患、脳血管疾患の順に多く、これらの生活習慣病による死亡者が6割を占めていると市民の健康の現状を示して、生活習慣病にならないためには①肥満にならない②適度な運動③禁煙④酒は適量に（男性2合、女性1合まで）⑤食塩摂取は一日5グラム程度⑥バランスのとれた食事をし、過食しない—を心掛けることが大事であると話しました。また、患者数が増えている糖尿病、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）、脳卒中の予防法を紹介、健康になるためには「今日知ったことを、1つでも今日から実行しよう」と呼びかけました。



函館アリーナを見学

青函ツインシティ交流研修会

青森・函館両市町会連合会は27年度青函ツインシティ交流研修会を10月13日（火）、函館市で開き、青森側から24人、函館側から30人が出席、函館市が整備し、注目を集めている函館アリーナと函館フットボールパークを見学、交流会で日ごとの取り組みなどについて意見交換しました。

函館アリーナ、函館フットボールパークは、人口減少、経済停滞に悩む函館市が、大規模スポーツ大会や各種コンベンションを誘致して市の産業振興を図ろうと2年前から整備を進めて、8月1日にオープン、市民も大きな期待を寄せている施設です。湯の川温泉地区にあるアリーナは年間を通し、ほとんどの屋内スポーツに対応できるほか、コンベンション、ライブコンサート、見本市などのイベントが開催できます。高校跡地を整備した



函館アリーナを見学する
交流研修会参加者

フットボールパークは、人工芝グラウンドのサッカー・ラグビーグラウンド2面、フットサルコート3面、1周800メートルのランニングコースがあり、大規模大会に対応できます。両施設では、函館市教育委員会の職員が、施設の概要と活用事例、スポーツ合宿への補助制度、近隣の宿泊・観光関連への経済効果について説明しました。

施設見学の後、函館駅前のロワジールホテル函館で交流会を開き、高齢者の生きがいづくり、健康づくりへの取り組みなどについて意見交換、交流を深めました。

交通安全施設の整備状況

63町会から要望が出されていた交通安全施設の整備（要望123カ所）について、市町連は4月20日に市役所へ要望書を提出、7月に市役所生活安心課、道路維持課、市町連交通・防犯部会、地元町会長、青森警察署が現地調査を行いました。診断結果は10月20日、市から市町連へ通知があり、市町連から要望があった町会へ文書で連絡しました。診断結果は次の通りです。

信号機（要望15カ所）公安委員会へ上申5カ所、検討中3カ所、対応困難2カ所、見送り5カ所

交通規制（要望32カ所）公安委員会へ上申1カ所、検討中6カ所、対応困難1カ所、設置不可1カ所、代替対応1カ所、見送り22カ所

横断歩道等道路標示（要望24カ所）設置済6カ所、公安委員会へ上申2カ所、検討中1カ所、設置不可1カ所、代替対応1カ所、見送り13カ所

その他（要望1カ所）一部設置1カ所

ロードミラー（要望58カ所）設置6カ所、条件付設置17カ所（東北電力・NTT等の許可が得られた後に設置）、対応済3カ所、代替対応1カ所、設置不可6カ所、取り下げ2カ所、道路管理者（国）へ連絡済1カ所、見送り22カ所

青森市表彰 4町会長が受賞

平成27年度青森市表彰の表彰式が10月14日（水）ホテル青森で行われ、長年にわたり町会長として市政に協力し、地方自治の振興発展に貢献された次の4氏が表彰されました。（敬称略）

櫻田 文信（野木町会長）

山口 一男（戸門町会長）

渡邊 健一（上八ッ橋町会長）

大坂 昭（本泉町会長）

哀 悼 録

信用町町会長 葛西 一二三 殿

（平成27年10月13日ご逝去）

慎んで哀悼の意を表します。

● 編 集 後 記 ●

「還付金があります」などと言って、ATMからお金を振り込ませる特殊詐欺、マイナンバー制度への理解不足につけこんだ詐欺が横行しています。身に覚えのない電話・郵便物がきたら、冷静になって、一人で判断せずに、必ず家族や友人、警察などに相談しましょう。（千）